

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年7月11日(日)第二主日礼拝  
週報「通算第565号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌397「神の御子にますイエス」 p. 636

【交読文】 No.9詩篇第27篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.2「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き10章1節～8節(新約p. 253上段)

【礼拝説教】 《カイサリアのコルネリウス》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(使徒の働き10章1節～8節)

10:1 さて、カイサリアにコルネリウスという名の人がいた。イタリア隊という部隊の百人隊長であった。

10:2 彼は敬虔な人で、家族全員と共に神を恐れ、民に多くの施しをし、いつも神に祈りをささげていた。

10:3 ある日の午後三時ごろ、彼は幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。その御使いは彼の所に来て、「コルネリウス」と呼びかけた。

10:4 彼は御使いを見つめていたが、恐ろしくなって言った。「主よ、何でしょうか。」すると御使いは言った。「あなたの祈りと施しは神の御前に上って、覚えられています。」

10:5 さあ今、ヤッファに人を遣わして、ペテロと呼ばれているシモンという人を招きなさい。

10:6 その人は、シモンという皮なめし職人の所に泊まっています。その家は海辺にあります。」

10:7 御使いが彼にこう語って立ち去ると、コルネリウスはしもべたちのうち二人と、彼の側近の部下のうち敬虔な兵士一人を呼び、

10:8 すべてのことを説明して、彼らをヤッファに遣わした。

### ●ポイント1.「カイサリア(カイザリア)」とは？

■**カイザリヤ** パレスチナの地中海沿岸にある港町で、カルメル山の南37キロほどの所にあった。ストラトンの塔と呼ばれた町の廃墟跡に、ヘロデ大王が、紀元前25年から12年をかけて大々的な改修工事を施し、見事な港町にした。小さな入江を拡張して防波堤を築き、劇場、円形演技場、競技場、導水橋、皇帝礼拝の大神殿を備えた一大都市とした。ヘロデ大王はアウグストゥス・カイザルにちなんで、町の名を「カイザリヤ」と改めた。大防波堤を築いたのでこの地方第一の安全な港となり、パレスチナ全体に対する交通の要所となった。政治的にも軍事的にも重要な都市となり、パレスチナ(シリヤ州とキリキヤ州)のローマ総督府となった。

### ●ポイント2.「イタリア隊」とは？

■**イタリア隊** イタリアで召集され、カイザリヤに駐屯していたローマ軍の一部隊。軍団の10分の1の約600の兵力を持つ部隊である。

### ●ポイント3.「あなたの祈りと施しは神の御前に覚えられている」とは？

※詩篇66篇19節～20節「賛美と感謝の礼拝の詩篇」 (旧約p.999上段)

66:19 しかし確かに神は聞き入れ私の祈りの声に耳を傾けて下さった。

66:20 ほむべきかな神。神は私の祈りを退けず御恵みを私から取り去られなかった。

※へブル人への手紙6章10節「神は不公平ではない」 (新約p.443下段)

6:10 神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れたりなさいません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。

※ピリピ人への手紙4章6節～7節「何も思い煩わずに」 (新約p.399下段)

## ◎先週のメッセージの概要【ドルカスのよみがえり】

《エルサレム教会から、使徒のリーダー、ペテロが巡回に来たことは、付近の町々にはすぐに伝えられました。ペテロは新しく加えられた、リダの信徒たちに、主イエスのみ言葉と、御わざについて教えていたのです。

その時に、ヤッファから二人の使いがやって来ました。ヤッファとは、ヨッパのことで、エルサレムの北西56キロ、地中海に臨む港町のことです。

さて、ヨッパにドルカスと言う女の弟子がおりました。聖書の中で女の弟子と言う表現で呼ばれるのは彼女だけです。彼女は、主イエスの公生涯中に弟子になったと思われます。特に、多くの良いわざと施しを人々にしていたことから、「山上の垂訓」を主イエスから、直に教えられていたと考えられます。よって、ペテロとも顔見知りであったに違いありません。

その彼女が、病気で死んでしまいました。彼女の弟子たちは、ペテロの所にやって来て、ヨッパに来てくれることを願ったのです。ドルカスの遺体は、洗い清められ、屋上の部屋に安置されていました。ペテロは、その部屋に入った時に、主イエスが公生涯において行なわれた、ある奇跡の御わざを思い出したのです。それは、カペナウムの会堂監理人ヤイロの12才になる一人娘のよみがえりです。この時、主イエスはペテロとゼベダイの子ヤコブとヨハネしか、共に部屋に入ることを許されませんでした。

主はアラム語で言われました。「タリタ、クミ」。訳すと、「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味です。ペテロも、ドルカスに向かって言います。「タビタ、起きなさい」すると彼女は目を開け、起き上がったのです。このことがヨッパ中に知れ渡り、多くの人々が主イエスを信じました。

新しく教会に加えられた信徒たちを教え導く為に、ペテロは長い間、ヨッパの皮なめし職人シモンの家に滞在することになるのです。

主の御心は、ドルカスをよみがえらせることでした。今現在も死人がよみがえることは起こり得ると信じます。しかし、主の御心だけが成就します。このお方が救い主です。このお方が、命を握っておられるのです。》

## ◎お知らせ

※次回第三主日礼拝は、日程を変更して、7月17日(土)午後5時～6時に行ないます。7月18日(日)の礼拝はありません。ご注意ください。